

学校教育目標	自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～ 自律と自立 ～	経営理念	「育ち直し」「学び直し」の理念のもと、児童生徒の自律・自立を支援する。 ～ この学校で学んでよかったと思える学校づくり ～
--------	--------------------------------	------	--

評価計画						自己評価					学校関係者評価		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							7月	12月						
学習指導	1	確かな学力の定着	わかる授業づくりの推進	・単元構成を含むUDを取り入れた授業の徹底 ・一人一人の実態に応じた丁寧な指導	・生徒の意識調査で「この教科の授業はよくわかります」の肯定的評価の割合 ・学園職員の意識調査で「わかりやすい授業を行っている」の肯定的評価の割合	90%以上 90%以上	78% 95%	77% 75%	84%	2	児童生徒の意識調査「この教科の授業はよくわかります」の肯定的回答は、小学校では100%と高いが、中学校で74.3%と低く課題である。講師の先生を中心に生徒の実態に配慮した授業展開が充分でない教科があり、学園職員のアンケートにもその記載がある。肯定的評価の高い教科の授業者をもとに授業づくりの共通認識を図りたい。	A	・講師の先生が全体で研修するのは難しいが、個々の研修に取り組んでほしい。 ・テスト等の結果など客観的なものを評価項目にすることも考えられる。	講師の先生方の授業改善に向けた意見交換や指摘が行えるような場面をつくっていく。テストの結果については、ほぼすべての在籍児童生徒が入所時期から得点を伸ばしており、また入所時もばらばらのため得点そのものを評価の指標とするのは難しい。引き続き児童生徒と学園職員の意識調査を指標としたい。
			自主的な学習態度の育成	・授業時間等での課題提示の充実	・教科担任が把握している課題の提出率の割合	90%以上	96%	97%	108%	4	前期同様、各教科において、取り組み忘れや提出忘れが稀にあるが、提出率は9割を越えており、遅れて提出したことを合わせると提出状況は100%になっている。評価の指標を、「教科担任が把握している課題を期限内に提出した割合」とし、より子供達の自主性を数値化する評価項目としたい。	A	・特になし	継続して取り組んでいく。
生徒指導	2	社会に通用する生徒の育成	生徒理解に基づく指導の充実	・学園との連携による人間関係形成能力向上に係る指導	・児童、生徒の意識調査で「周りへの感謝と思いやりの心をもって生活できるようになった」の肯定的評価の割合	85%以上	100%	100%	117%	4	前期に引き続き、アンケート調査での肯定的評価は100%の結果であった。年間を通して他者との係わりを意識させた取り組みが行われている。近年の状況においては、人間関係形成について課題が多い児童生徒実態がある。各学級・各教科及び部活動など様々な場面で共感的人間関係作りを継続してすすめていく必要がある。	A	・個別面接も計画的に行われている。評価項目にすることも考えられる。	引き続き、さまざまな児童生徒実態を把握するために、学園職員との連携を密にしていく。
			部活動の充実	・全職員で見守る指導 ・広島学園との連携・協働による指導	・児童、生徒の意識調査で「部活動では達成感があった」の肯定的評価の割合 ・平日の部活動への複数の教員参加率	85%以上 90%以上	90% 100%	95% 100%	111% 111%	4	今回のアンケートでも目標値を大きく上回ることができた。年間を通して学園職員と協働して指導に取り組むことに努めた。児童生徒に目標を設定させながら活動させるなど、自主的・積極的に練習に取り組めるよう工夫や改善に取り組んだ。また、前期と同様に複数の教職員が参加し、全体で指導・助言を行うことができた。	A	・自尊心が低い生徒が部活動の際、目標を設定し活動することでモチベーションが上がっている。 ・部活動の充実と平日の部活動への複数の教員参加率との関連性は明確でないと思われる。違う評価項目を考えたほうがよいと思う。	参加体制については、教職員及び学園職員の意識調査から、日々の連携状況などの取り組みについて評価をしていく方向で調整したい。参加率については、平日は基本全員参加という意識で取り組みたい。
信頼される学校	3	関係機関から信頼される教育活動の充実	広島学園職員から信頼される教育活動の推進	・一人一人の課題やニーズに応じた教育活動の充実	・学園職員の意識調査で「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	90%以上	95%	100%	111%	4	目標値を大きく上回ることができた。意識調査結果から学園職員との積極的なコミュニケーション(肯定的評価100%)が起因していると考えられる。次に、肯定的評価の割合をしてみると「あてはまる」が15%に対し「ややあてはまる」は85%であった。中間評価よりも「あてはまる」の割合が低くなっている。その原因として、わかりやすい授業の肯定的評価が低くなったことが推測される。今後、授業改善をさらに進めていく。	A	・肯定的評価が低かった学園職員の意見を大切にしてほしい。	学園職員からいただいた意見を教職員で共有して改善を図っていく。
業務改善や働き方	4	効果的な教育活動の充実	勤務時間を意識した働き方の浸透	・業務の進め方の改善 ・個別業務の精選と省力化の工夫	・勤務時間外の在校時間が月45時間未満の割合	90%以上	95%	93%	103%	4	目標値を上回ることができた。教職員一人一人が意識し、効率よく業務を行ったことや協働して業務を進めた結果と考えられる。また、教職員の意識調査から、「報告・相談・連絡」の徹底や教職員間の良好なコミュニケーション及び机上整理もその一因と推測される。	A	・特になし	継続して取り組んでいく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
 2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価
 A...とても適切である B...概ね適切である
 C...あまり適切でない D...全く適切でない